

米山梅吉記念館 館報

2005
(平成17年)

春

Vol. 5

おかげさまで 35 周年



財団法人 米山梅吉記念館



館報第5号発行に際して

理事長 内藤成雄

「災」とか「負」の名で総括された平成16年を終え、期待と希望で閉じた平成17年ですが、まだ大雪の異常気象、中越に続いて九州西大地震の自然災害、毎日のように長年高齢や近隣間の屋敷犯罪、マネー頼り時代の経済闘争等々、情緒喪失の結果が目立ちます。

全国のロータリーの皆さま、お元気ですか、米山記念館です。こんな時なればこそロータリーライフが貴重に思えます。われわれの迫り理想と夢、平和、親睦、奉仕、愛、等人間だけにしか出来ないことの実現を地球規模でめざす運動に躍を置くことを、救いとも幸福とも感じています。

米山殉古記念館も、おかげさまで苦戦しながらも賑やかな運営が続いています。何よりの励みは全国各地よりご来館下さるロータリアンをはじめ多くの皆さまの愛かい眼差です。折角お越し下さるのですから、お土産ばかりでなく、企画展も考えているのですが、人材、情報、財力の不足等、その段階に到らず申し訳なく思っています。何卒よい情報やお知らせがありましたらアドバイスよろしくお願ひします。

昨年の館創立35周年の記念事業も終り、今年も春、秋恒例の例祭の外、大々い事業はなく館内容の充実にとめておりましたが、35周年事業の目玉であった「米山殉古記念館創立35周年記念誌」が本年ようやく完成し、全国の各ロータリークラブ外関係の皆様にお届けできる運びとなりました。本誌は「慈我の人・米山殉古の遺言」としました。本年度のR I会長テーマが「慈我の奉仕」ですが、ちうまく符合しました。1年有半に亘る記念誌発行委員会の井口賢明委員長（和津北RC）以下スタッフの皆さまの苦心の作です。この本は記念行

事の報告的なものでなく、米山殉古館を更に知るため、殊にロータリー関係に視点を多く置く編集しました。米山館の記録は沢山あるのですが、散逸や内蔵が多く、集成したものがありませんので、井口委員長らが懸命に収集し資料編に多く頁を割きこの点では決定版に近いと自負しています。

戦争によって中断された日本ロータリー史、旧70地区の日連連合会等のR・I・B・Jにも似た運動史、そして何よりも現在ロータリーに関わっている原点、職業奉仕・親睦界基本的なことが、今も新鮮な米山メッセージとなって資料編にまつまっておりますので、何卒全国のロータリーのかたがたに読んでいただきたいと思っております。

館の運営は毎回中十通り1,2620地区（館所在）の地区資金、②神奈川の2地区、③米山記念堂の助成、④地区内外のクラブ周年行事の寄附金、⑤賛助会費等によっておりますが、今重きをなしているのが⑥全日本のロータリーアン1人年間100円募金運動です。100円と言うなれば、平成15年7月から平成16年6月で4,875,807円を頂きました。本年同じ趣金をした地区運営部門の主要な力となっており、米山殉古という名の大きさと全国の皆さまの御理解の深さをつくづく感じます。

会員減少に悩む現状の中で有難い種目、何卒今後よろしくお願ひいたします。館組織は全国から運出された理事・評議員、実際の運営は地区組織内の米山記念館委員会所領のガバナ一委員23名の運営委員によっております。富士山をめぐる景観の地、伊豆箱根の温泉のまちをひかええた地には銘はあります。何卒年次計画に米山記念館訪問をお加え下さい。お待ちしております。第5号館報をお送りします。

創立35周年記念式典開かれる

2004年9月18日、米山殉古記念館創立35周年記念式典が東レ総合研修センターにて開催されました。

式典は、米山殉古の孫にあたる米山明、池田はじめ、ロータリー米山記念堂学舎島津久原理事長、東京RC水野正人会長、ロータリーの支店運営委員長、第2620地区運営情報ガバナ一、柏木忠文委員長、地区役員、そして全国から500名ものロータリアンその他の参加者を得て、賑やかに幕を開けました。

式典では、来賓のご挨拶の後、米山殉古記念館功労者表彰が行われました。表彰された方々は次のとおりです。

〈米山殉古賞〉

大河原二郎（第2代理事長）
坂本 豊典（第3代理事長）

〈特別功労賞〉

長原町 ロータリー米山記念館学舎
長原RC

〈役員功労賞〉

徳田 幹男 河口陽二郎 中村 明智
〈職員功労賞〉

柏木 勲 吉川 邦夫

〈功労賞〉

個人 加藤 恒七（国松東） 成川 守彦（宍 田）
岩波 俊雄（甲府北） 阿河 正昭（板 出）
鎌倉 弘道（長崎南） 重次 建（長 原）
米山 明敏（三島南）

クラブ

2500地区/北見東 2510地区/千歳セントラル 室蘭 2530地区/郡山南
2550地区/宇都宮 2560地区/鶴林 三島南 2570地区/鎌倉
2580地区/東京江東 草薙 2590地区/神奈川
2600地区/熱海南 伊豆中央 磐田 清水 甲府西 甲府南 御殿場 下田 沼津北 沼津西 沼津東
沼津南 浜松東 富士吉田 三島 三島西 三島南 南アルプス 綾津 綾津南
2630地区/岐阜南 2640地区/田辺 2650地区/宇治 福知山西側 福知山
2660地区/大阪南 八尾中央 2670地区/松山 松山東 2680地区/加古川平成 藤山 船越南
2720地区/中津平成 別府 別府東 2740地区/長崎西 2750地区/東京調布むらさき 東京目黒
2760地区/岩倉 蒲原 名古屋瑞穂

ご来賓の方々

相川 行雄（鎌 倉）
浅田 光二（志 水）
川本 好子（三島南）



開かれた記念式典

典という人は四代将軍頼朝の四人の弟のひとりです。義仲の嫡子息子が五代将軍の義量という男ですが、この男が、酒と色に溺れて死んでしまったといわれています。実際に年輪的にいうと19歳で若くして死んでしまったのです。惨めな死に方だったと思えますが、この後継軍をたてなければならぬことになったとき、将軍になりそうな位置にいる兄弟たちがみんな種はいやだと逃げてしまい、固り果てて重臣たちがとても奇妙な死なややかたで六代将軍を作ってしまったのです。どういやり方をしたかという点と重臣が何人か寄り集まってくじをひいたのです。将軍を決めるのにくじ引きして決めるというのは今の日本の政府も似たようなものですが、かなり無茶苦茶な選び方をして一人決まった人がいたのです。この人は他は誰だといいたくないから出家してしまっただけで、結局くじにあてられた男が義教なんです。仕方なく将軍職につかされた。僧職に入っていたところを退治させられた義教さんですからやる気もあまりないです。そういう人が富士山を見たといっています。きて五日間も六日間もずっと寝てもさめても富士山を眺めていたというのは、よほど暇があった。考え方によっては阿呆じやないかという、本当に阿呆かどうかはわかりませんが、この時代は実は時代的に行くと一握りあって本当に世の中が荒れ果てていたわけです。ですから富士山を眺めるなんてそんなのんびりした気もないです。

そういう意味からすると富士山を眺めに行ったというのも京都からわざわざわざわざ下ってくることによってにらみをかきさせたということがあります。京都からわざわざ鎌倉に近い富士のすそのまで来た。というのは将軍の威光を示す高に一種のデモンストラーションかもしれない。彼の少し上の人が三代将軍の義満ですが、義満というのには非常に偉大な将軍ということになっていきますね。義満も関東へのらみをかきさせるために富士山を遊覧したという歴史があるのです。

義満がかわいがっていた役者の一人が世阿弥です。義満に敬慕された世阿弥を六代目の義教はとってもして、世阿弥を押し出そうとしてその代わりに世阿弥の婿っ子の音阿弥という有名な役者をひきかたてて、世阿弥という偉い役者を佐渡に渡した張本人なのです。義教は実に奇妙な天型な愚問をとげます。ある日、義教が義満が御つてお祝いの祝宴を赤松康徳という力の強い大名のところでやっていたところ、赤松の息子康隆が突然乱入してきてお客で来たいた義教をばつと切り殺してしまっただけで、それから富士山というのはいまなまぐさい混乱の時代の人々に大変尊重されていた山であったというところも明らかです。

時間が経ちましたのでこれで失礼しますが、今日は宮崎さんと草間さんの講演もお聞きできてよかったです。ありがとうございます。



大岡氏、内閣府参事長を中心とした式典に参席の来賓

記念誌編集集

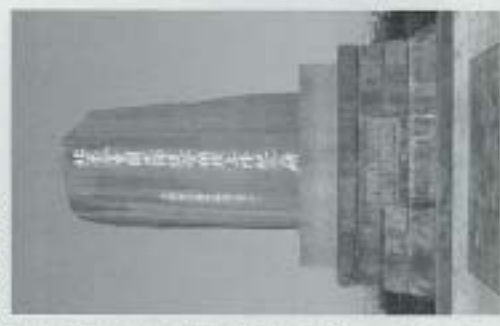
余話 (2)

米友協会、米山梅吉
そして野口英世

沼津北RC 井口 賢明

記念館の日につかない場所から『米友協会會史』という資料がでてきた。

米友協会というのは、アメリカに遊学若しくは在留した人の懇話会である。明治31年12月に設立し、明治39年9月からは、金子堅太郎が会長となった。米友協会の一番大きな事業は、明治39年7月にベリール米友協会を作ったことである。太平洋戦争末期、横濱市の米友協会を中心に、これを相模し道路に敷くという運動が起った。昭和20年2月の頃は引き倒されたが、その材料費は、戦後となって生き延びた。昭和21年に復元された。現在は横浜市の久保町のベリール公園にその記念碑を建てている。



島上けんばかりの遺々たるベリール米友協会碑
伊藤は伊藤博文

米友協会は、沢田半之助が中心となり設立され、その後、私も常任幹事として運営されてきた。沢田は、米山と同じ明治元年の生れで、結婚して一女をもうけた後、明治23年12月妻子を喪し、單身アメリカに渡った。サンフランシスコで洋風屋を

開き、5年たって帰国した。東京都立で洋風屋をはじめ、山崎らと労働組合の結成に奔走した。日本の近代労働組合運動の草創的存在である。

米山梅吉の米友協会へのかわりである。『會史』によれば、米山は發起者の一人として、その設立にかかわった。米友協会は、春秋2回の懇話会、米山大使や日本の駐米大使の歓迎会や歓迎会を開いているが、その出席者には米山の姿はみえない。サライーマンの身であるのか、これらの会にはあまり出席しなかつたとみえる。

この『會史』は、明治44年6月30日に発行されたものである。そのときにおける39名の会員の名簿がある。金子堅太郎と伊藤半之助の名が名を連ねている。当時、日本の政治、社会を動かしていた人たちの集まりだったといえようである。このなかには、米山をはじめとして、東京ロータリークラブの創立メンバーのうちの10名の名前がある。東京クラブ創立後の大正12年8月に会員となった血闘守之助の名前もある(この入会は、米山の推薦によるものであろう)。この血闘守之助をみると、このときまでにアメリカに渡った形跡がない。このことからすると、米友協会は、遊学若しくは在留した者でなくとも、会員となりえたのであろう。

昭和6年6月に今回の資料である『會史』を復元させた沢田の遺族が解説によれば、沢田は、昭和9年に死んだが、(如藤、小松(後)、米山、今井(五介)、倉地(結夫)、山村氏等に看取られ、生涯を閉じた。伊藤は、米山が幹事委員長となり、友人兼で行なわれたとある。沢田と米山は、サンフランシスコ時代に出会ったのである。また、沢田と伊藤は、深い交わりであったようである。沢田は、白粉の毒を血闘に倒けている。

米山と血闘の関係である。血闘の伝記によれば、血闘は、明治19年10月明治学院に転校した。そして、明治19年10月まで血闘にあり華英大を卒業して東京一高英和学校と呼ばれ有名であったが、明治十九年六月東京一高英和学校と合併し芝白金山講堂に設立された事件

200本の贈呈式を行い、両クラブで和やかに懇親会を開きました。

花水木の苗は4月上旬に東京に届き、ご縁があつて、東京調布むらさきRCの会員である専門家の方々にお手助けいただき、12月中旬に米山梅吉記念館をはじめ、公園、学校、公共施設、希望会員宅へ届けることができました。



東京調布むらさきRCの会員が、希望者の花水木を届ける様子
(東京調布むらさきRCの職員と)

RI創立100周年を迎える年に、桜と花水木を結ぶ縁が、東京調布むらさきRCとの新たなクラブ交流へと広がりました。また、米山梅吉記念館には1995年に寄贈の2本に加え、この度さらにピンクと白の花水木を寄贈させていただきました。

《ご参考資料》

☆花水木植樹の記録

- ・1973年 泉岳北の丸公園に花水木 300 本植樹
- ・1974年 泉岳北の丸公園に花水木 300 本植樹
- ・1977年 東京都水元公園に花水木 120 本植樹
- ・1978年 東京都水元公園に花水木 50 本植樹
- ・1980年 国際ロータリー75周年記念事業として全国17地区のクラブに花水木2,140 本寄贈
- ・1995年 東京RC創立75周年記念事業として米山梅吉記念館落成記念に花水木2 本寄贈
- ・1996年 ひょうごグリーンネットワークに白の花水木 100 本寄贈
- ・1998年 盛岡ロータリークラブ創立60周年記念として紅白の花水木2 本寄贈
- ・2004年 米山梅吉記念館2本、千代田区外務公園7本、他計200 本植樹

☆花水木を見る会開催日

- ・1991年4月24日(水)
- ・1992年4月22日(水)
- ・1993年4月28日(水)
- ・1994年4月27日(水)
- ・1995年4月26日(水)
- ・1996年4月24日(水)
- ・1997年5月7日(水)
- ・1998年5月6日(水)
- ・1999年4月28日(水)
- ・2000年4月26日(水)
- ・2001年4月25日(水)
- ・2002年4月24日(水)
- ・2003年4月23日(水)
- ・2004年4月21日(水)
- ・2005年4月20日(水) 予定



東京RC寄贈の花水木の植樹
(米山梅吉記念館前)

内藤成雄記念館理事長お手ずから植樹していただきました。

北の丸公園の花水木の下にある記念碑には「花の心が世界を結ぶ。(故長瀬富太郎東京RC会員作)」と書かれています。東京RCは、先達の残されたこの言葉を大切に守り、機会あるごとに花水木の植樹をし、花の心とともに世界にロータリーの精神を広げ、友好と平和の建橋に寄与したいと願っております。

文芸 館展示の米山翁の書解説

「八十七日」

大正11年(1922)出版



大正10年10月、米山は英米訪問実業団の一員としてアメリカに渡った。87日間のこの旅は、ワシントンの東部会議などに参加するという仕事の一環。その年に亡くなった長男東一郎の鎮魂と自分自身の感傷の記録もあつたように思われる。この本は旅行記をかねた歌日記の形を呈している。

またこの旅の途中で米山は、新千円札の顔となつた野口英世にも会っている。そしてロックフェラー研究所を訪れて、

夕刻某博士を某インSTITUTEに訪ひ、相携へて共に友人の家に日本料理の饗応を受く

故郷にうとむせらるゝ平昔者の
とつ園に名を成しし君かも

と野口博士のことを詠んでいる。

「日本人は一日に一回しか寝ない」と噂されるほど熱心に自分の研究に没頭していた野口英世と故郷を離れ海外で活躍する日本人の姿にふれた米山、共に和歌や俳句を趣味とする者同士は、初対面であつても旧知の感懐であるかのように話はずんだことだろう。

竜舌蘭

百年に一度だけ咲いて枯れるともいわれている竜舌蘭。昭和六年、下土狩の別荘にあつた竜舌蘭の花が開花した。梅吉翁はその時に通りあつた偶然と幸運を「故郷の庭に竜舌蘭の花をけるに」と題して三首歌つている。

めでたしと人のたふふるにまかせつゝ、
高々と咲けり竜舌蘭の花は
水に沖しとけるこの蘭を、しくも
雲を呼び来て己が色とせる
百年に一たびのさかえ花さきて
枯るとふこれの蘭の奇しも



別荘の庭に咲いた竜舌蘭

竜舌蘭が咲いたという知らせを聞き、梅吉翁の短歌の辞でもあつた歌人佐木信綱氏が別荘を訪れた。

記念館の庭にある竜舌蘭の花が次に開花するのはいつのことであろうか。

(財)米山梅吉記念館創立35周年記念誌

あしおと 超我の人 米山梅吉の足音

日本のロータリーの父、米山梅吉の知られざる素顔、新発見のエピソードを満載。
米山のガバナー通信（仮称）はじめ、今まであまり日の目を見なかった記録を資料編に多数登載。
米山梅吉、米山梅吉記念館をさらに深く知る絶好の一冊です。

内 容

- ・米山梅吉 その生い立ちと人となり
- ・米山梅吉 そのロータリーとのかかわり
- ・(財)米山梅吉記念館の歴史
- ・資料編

頒布価格 2,500円

●お申込み お問合せ

(財)米山梅吉記念館

TEL055-986-2946 FAX055-989-5101

—100円の細い糸が館と全国を結ぶ—

(財)米山梅吉記念館

全国1人年間100円募金運動 全国ロータリアンに向けて

引続き展開中の運動です。既にご送金いただいた個人、クラブ、地区も相当ありますが、この運動は当分の間、事業費の不足をおぎなうために毎年度継続して行っております。クラブ単位、地区単位でご送金いただく方が便利ですが、勿論個人でも結構です。この運動も任意のご意志によってお願いしております。何卒よろしくお願いたします。

申し込み、振込先 (100円募金)事業資金振込先
郵便振替口座 番号 00820-4-57730 財団法人 米山梅吉記念館

賛助会費ご協力のお願

理事長 内藤 成雄

館運営及び事業費の一部にあてるため、自主的な善意により引続き賛助会員による賛助会費の運動を続けております。会費は、お一人年3,000円（1口）です。

個人でもクラブ単位でも結構です。何卒よろしくお願いたします。

申し込み、振込先 賛助会費振込先
静岡銀行 下土狩支店 普通 0367598 (財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄

訂正のお願い 館報№4 表紙写真人物説明（左）宮本常次郎氏は宮岡恒次郎氏の誤りでした。訂正しお詫び申し上げます。

米山記念館及び館報へのご意見、ご感想、寄稿等お寄せ下さい。

米山梅吉記念館報

Vol. 5

発行日 平成17年4月23日
発行者 (財)米山梅吉記念館 理事長 内藤成雄
〒411-0941 静岡県駿東郡長泉町上土狩346-1
TEL (055) 986-2946 FAX (055) 989-5101
印刷 フタバ印刷株式会社

開館時間

午前10時～午後5時
（但し11月～3月は午後4時まで）

休館日

月曜日
（12月28日～1月4日 整理のための休館日）